

調査の概要

- 1 根拠要領：神奈川県年齢別人口統計調査事務処理要領
- 2 調査時期：令和4年1月1日午前零時現在
- 3 調査方法

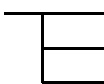
この調査は、令和2年国勢調査の調査票情報を独自集計した年齢別人口を基礎とし、市町村長の報告に基づく住民基本台帳法及び戸籍法に定める出生、死亡、転入、転出の年齢別異動人口を加減して毎年1月1日現在の年齢別人口を算出し、県でとりまとめたものです。

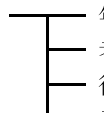
- 4 地域別市町村名

地域名	市町村名
横 浜	横浜市
川 崎	川崎市
横須賀三浦	横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町
県 央	相模原市、厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村
湘 南	平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町
県 西	小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町

用語の解説

- 1 年 齢：調査日前日による満年齢

- 2 年齢（3区分）別人口 

- 3 年齢構造指数 

- 4 性 比：女性100人に対する男性の数

- 5 平均年齢の算出方法

$$\text{平均年齢} = \frac{\text{年齢（各歳）} \times \text{各歳別人口の和}}{\text{総人口} - \text{年齢不詳人口}} + 0.5 \text{（満年齢後の経過月数調整値）}$$

（小数点第3位以下切り捨て）

利用上の注意

- 1 神奈川県年齢別人口統計調査は、国勢調査による年齢別人口を基礎として推計し、本県が昭和51年から毎年1月1日現在にて実施しているものです。本報告書に使用しているそれより前の数値は、総務省が大正9年から5年ごとに実施している国勢調査結果（各年10月1日現在）を使用しています。
- 2 人口及び異動人口の総数には年齢不詳を含んでいますが、構成比は年齢不詳を除いて算出しています。
- 3 年齢不詳は、国勢調査結果における、年齢「不詳」の数値に基づく推計値です。
- 4 数字の単位未満は四捨五入してあり、合計の数字と内訳の計が一致しない場合があります。
- 5 全国の数値は、「人口推計」（総務省統計局）(<http://www.stat.go.jp/data/jinsui/2.htm#monthly>)を使用しています。
- 6 解説中に用いている「ポイント」とは、比率の差を表します。「ポイント」は小数点第2位以下の数値で算出しているため、表上の数値と一致しない場合があります。
- 7 転入、転出には、県内市区町村間の移動を含みます。
- 8 該当数値がマイナスのものは、当該数値の前に「-」又は「△」を付けて表記し、該当数値がないものは、「-」で表記しています。
- 9 国は、令和2年国勢調査結果の概要書における年齢別人口について、年齢「不詳」の数値をあん分等によって補完した不詳補完値を算出し、参考値として採用していますが、本報告書は原数値を基礎として作成しています。

調査結果の概要

1 年齢（3区分）別人口

(1) 令和4年1月1日現在の神奈川県は、923万1177人(男性457万9919人、女性465万1258人)です。

年齢(3区分)別人口は、年少人口(0～14歳)106万5999人、生産年齢人口(15～64歳)562万7097人、老年人口(65歳以上)232万4007人となり、老年人口が年少人口を125万8008人上回っています。【図1、図2、表1、表3参照】

(2) 昭和51年1月1日現在の調査(調査開始年)と比較すると、総人口は280万8343人の増加、年少人口は57万4430人の減少、生産年齢人口は118万9307人の増加、老年人口は198万3042人の増加となっています。

なお、調査開始以来、年少人口は最も少なく、老年人口は最も多くなっています。

【図1、図2参照】

(3) 令和3年1月1日現在の調査(以下「前年調査」という)と比較すると、総人口は5160人の減少、年少人口は1万6585人の減少(平成22年1月1日現在以降対前年13年連続減少)、生産年齢人口は406人の減少、老年人口は1万1834人の増加(調査開始以来一貫して増加)となっています。【図2、表1、表6、表11参照】

(4) 年齢(3区分)別人口の構成比は、前年調査に比べ、年少人口は0.2ポイント低下し11.8%(全国値11.7%)、生産年齢人口は横ばいで62.4%(同59.4%)、老年人口は0.1ポイント上昇し25.8%(同28.9%)です。【図3、表1、表6参照】

(5) 年齢構造指数をみると、年少人口指数は18.9、老年人口指数は41.3、従属人口指数は60.2で、生産年齢人口100人に対して年少人口及び老年人口が60.2人の割合となります。老年化指数は218.0で、年少人口100人に対し老年人口218.0人の割合となります。

なお、全国値は年少人口指数19.8、老年人口指数48.7、従属人口指数68.5、老年化指数246.1であり、県はいずれの数値も全国値より低くなっています。【図4、表2参照】

年齢（3区分）別人口及び構成比

年齢(3区分)	令和4年		令和3年		増減		全国(令和4年)	
	人口(人)	構成比(%)	人口(人)	構成比(%)	人口(人)	構成比の差(ポイント)	人口(千人)	構成比(%)
総数	9,231,177	—	9,236,337	—	△ 5,160	—	125,309	—
年少人口 (0～14歳)	1,065,999	11.8	1,082,584	12.0	△ 16,585	△ 0.2	14,718	11.7
生産年齢人口 (15～64歳)	5,627,097	62.4	5,627,503	62.4	△ 406	0.0	74,375	59.4
老年人口 (65歳以上)	2,324,007	25.8	2,312,173	25.6	11,834	0.1	36,215	28.9

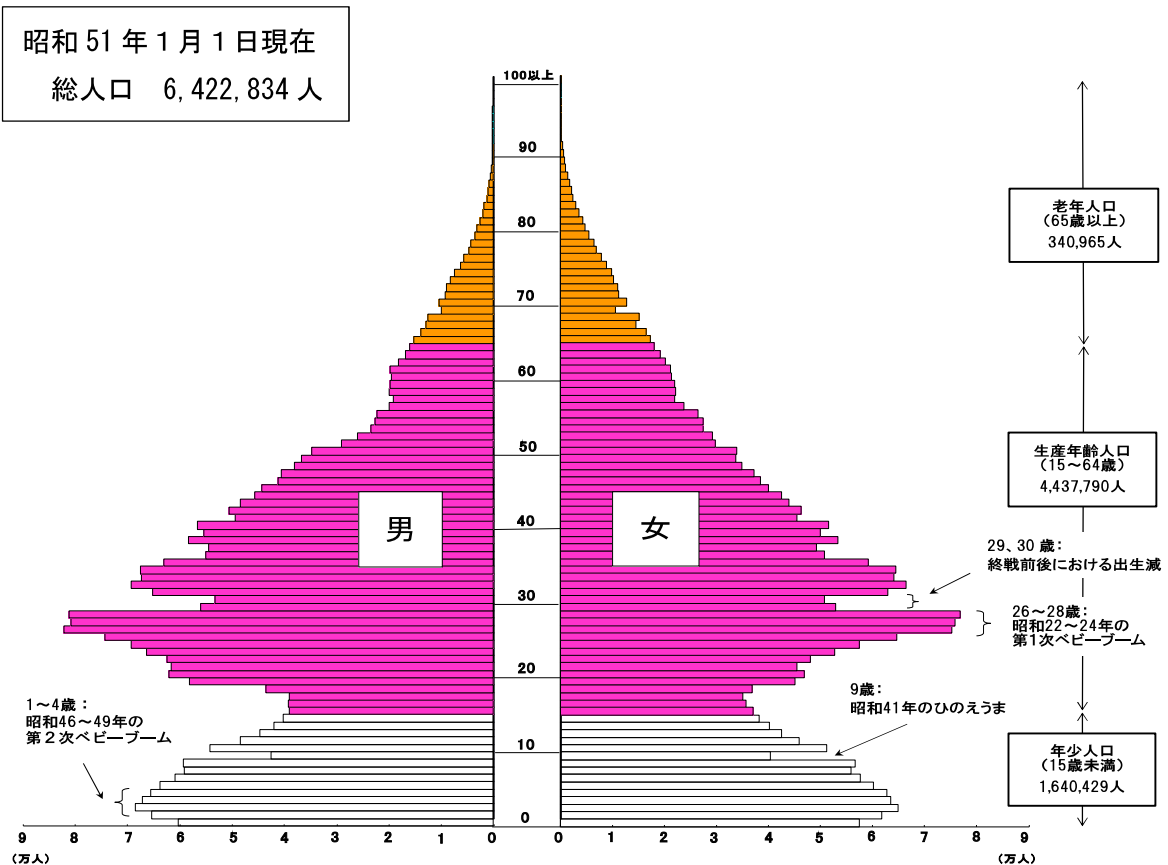
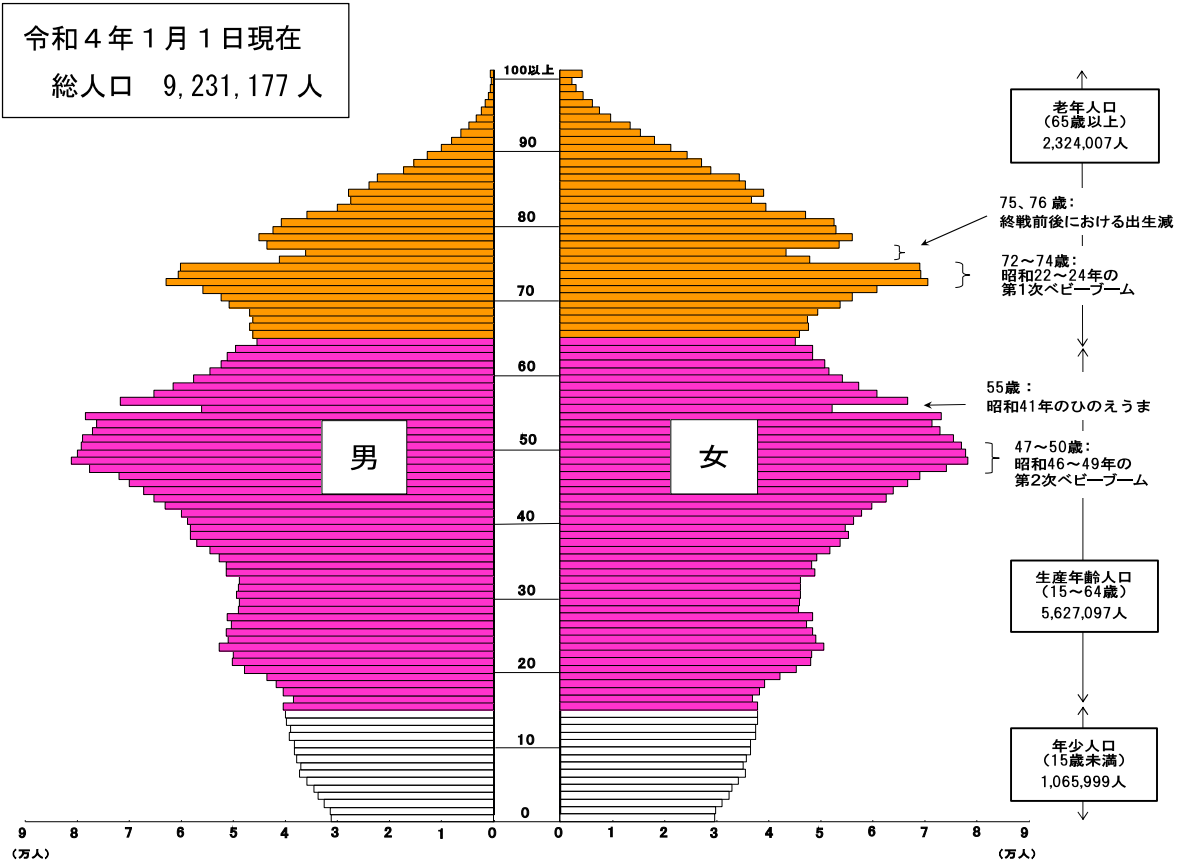
(注) 1 神奈川県の総数には年齢不詳を含むため、合計は一致しない。

2 神奈川県の構成比は年齢不詳を除いて算出している。

3 全国の数値は、「人口推計」(総務省統計局)の令和4年1月1日現在人口(確定値)を使用している。

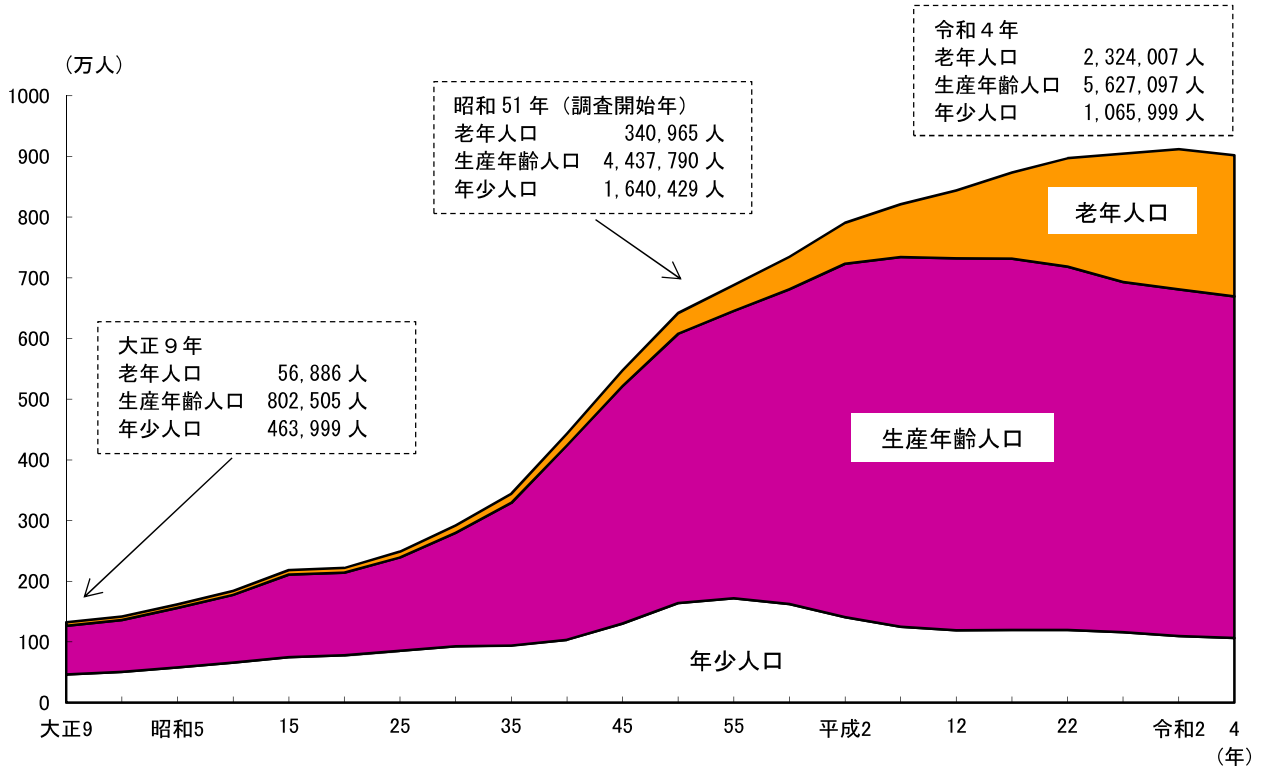
4 構成比の差(ポイント)は小数点第2位以下の数値で算出しているため、表上の数値と一致しない場合がある。

図1 人口ピラミッド〈年齢（各歳）、男女別人口〉
 (昭和51年（神奈川県年齢別人口統計調査開始年）との比較)



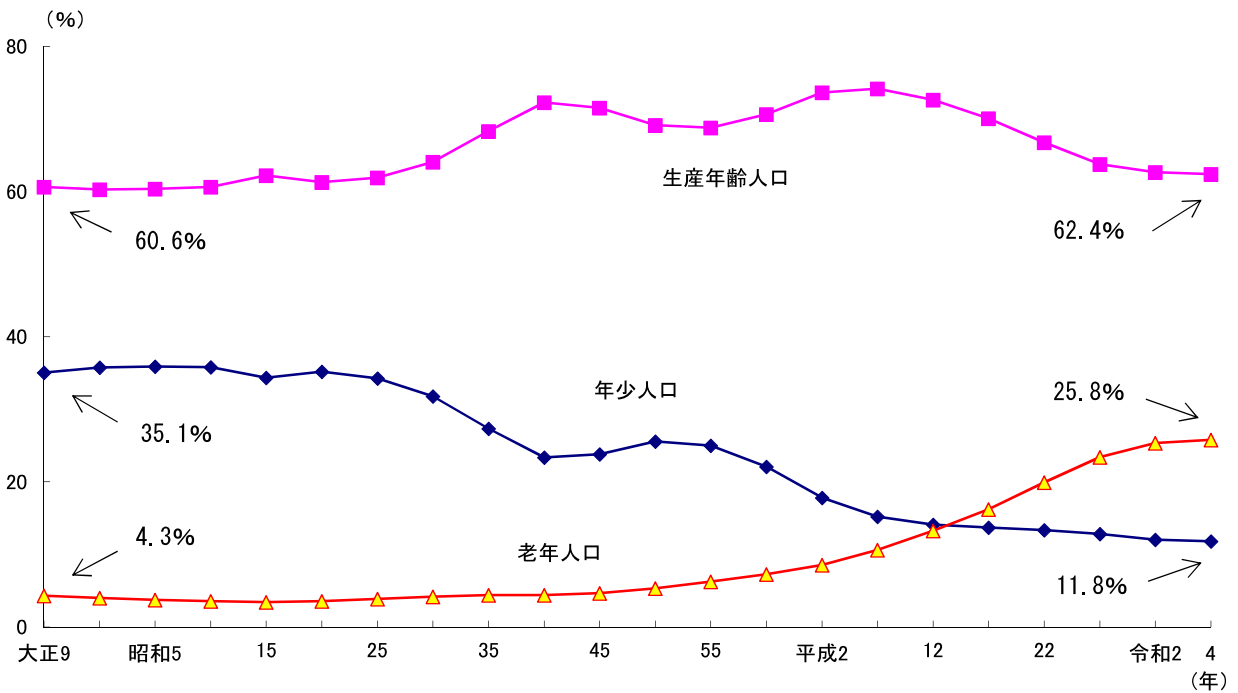
(注) 人口ピラミッドには年齢不詳は含まない。

図2 年齢（3区分）別人口の推移



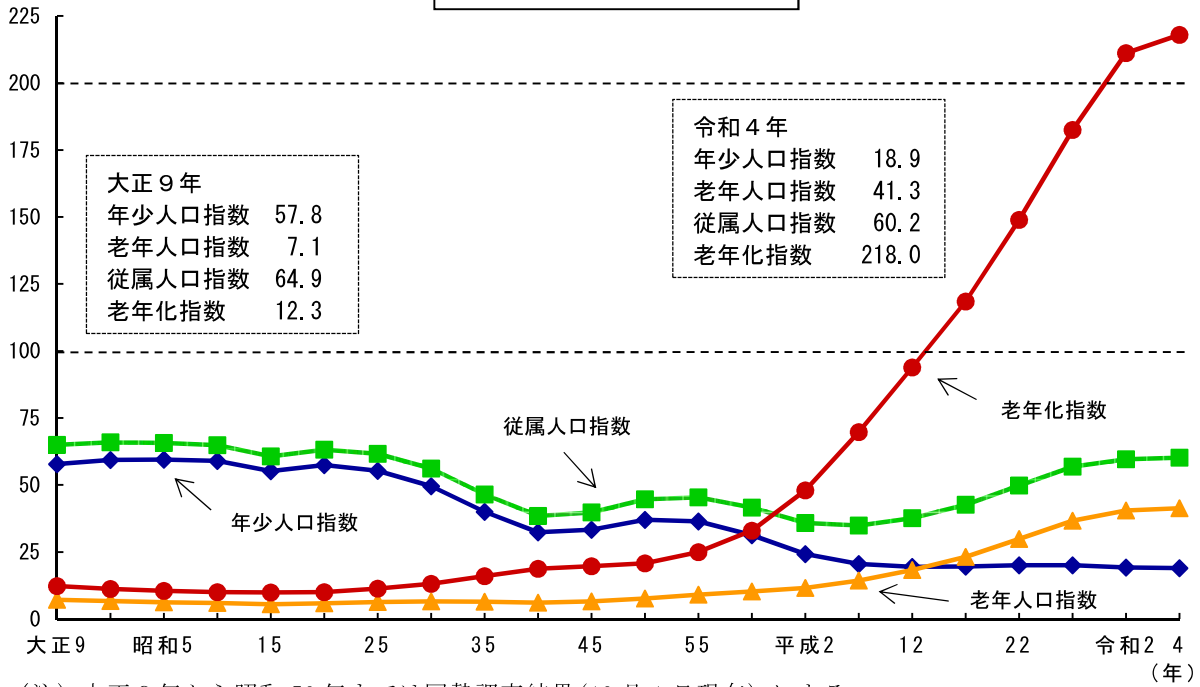
(注) 大正9年から昭和50年までは、国勢調査結果(10月1日現在)による。

図3 年齢（3区分）別人口構成比の推移



(注) 1 構成比は年齢不詳を除いて算出している。
2 大正9年から昭和50年までは、国勢調査結果(10月1日現在)による。

図4 年齢構造指数の推移



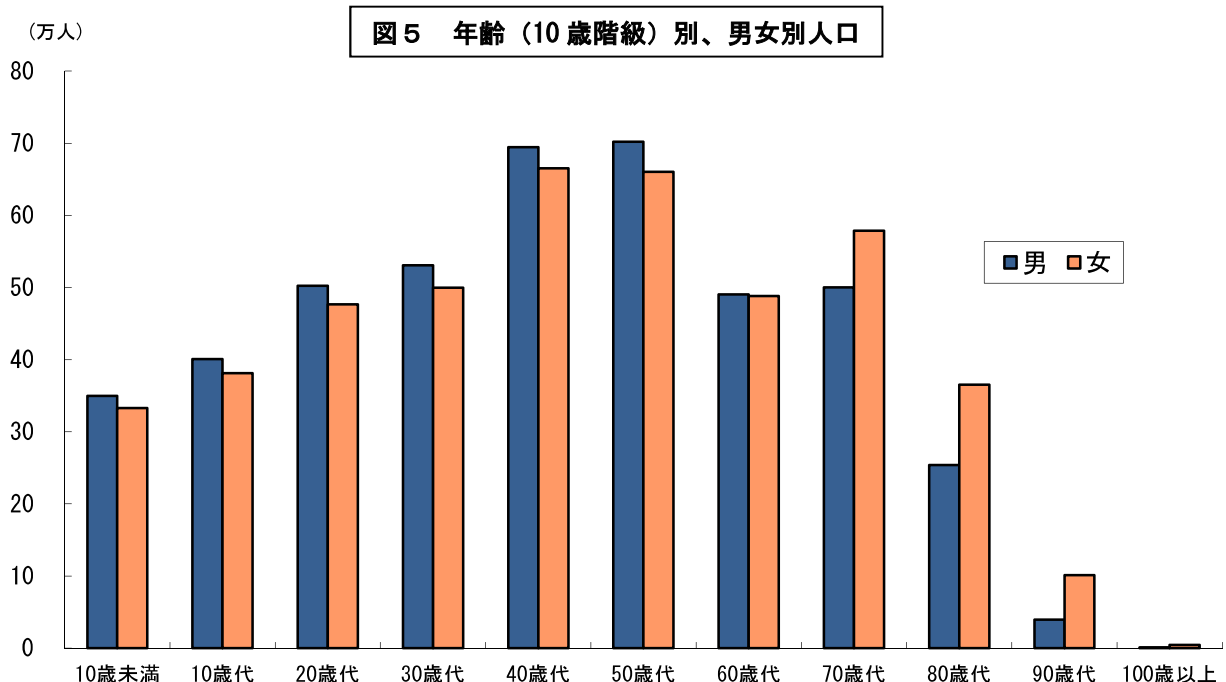
(注) 大正9年から昭和50年までは国勢調査結果(10月1日現在)による。

2 年齢(10歳階級)別人口

- (1) 年齢(10歳階級)別人口は、50歳代が136万2218人(人口構成比15.1%(15.11%))と最も多く、次いで40歳代の135万9787人(同15.1%(15.08%))、70歳代の107万8760人(同12.0%)の順となっています。【表3、表9参照】
- (2) 前年調査より10歳未満、10歳代、30歳代、40歳代、60歳代、70歳代の人口は減少し、20歳代、50歳代、80歳代、90歳代、100歳以上の人口は増加しています。【表3、表9参照】
- (3) 男女別人口でみると、男性では50歳代が70万2109人(男性に占める割合は15.7%)と最も多く、次いで40歳代の69万4472人(同15.6%)、30歳代の53万878人(同11.9%)の順となっています。

女性では40歳代が66万5315人(女性に占める割合は14.6%)と最も多く、次いで50歳代の66万109人(同14.5%)、70歳代の57万8665人(同12.7%)の順となっています。

【図5、表3参照】



3 性 比

(1) 総人口を男女別にみると、男性が457万9919人、女性が465万1258人で、女性が7万1339人多く、性比(女性100人に対する男性の数)は98.5です。前年調査と比べると0.2ポイント低下していますが、全国値(94.6)と比べると3.9ポイント上回っています。

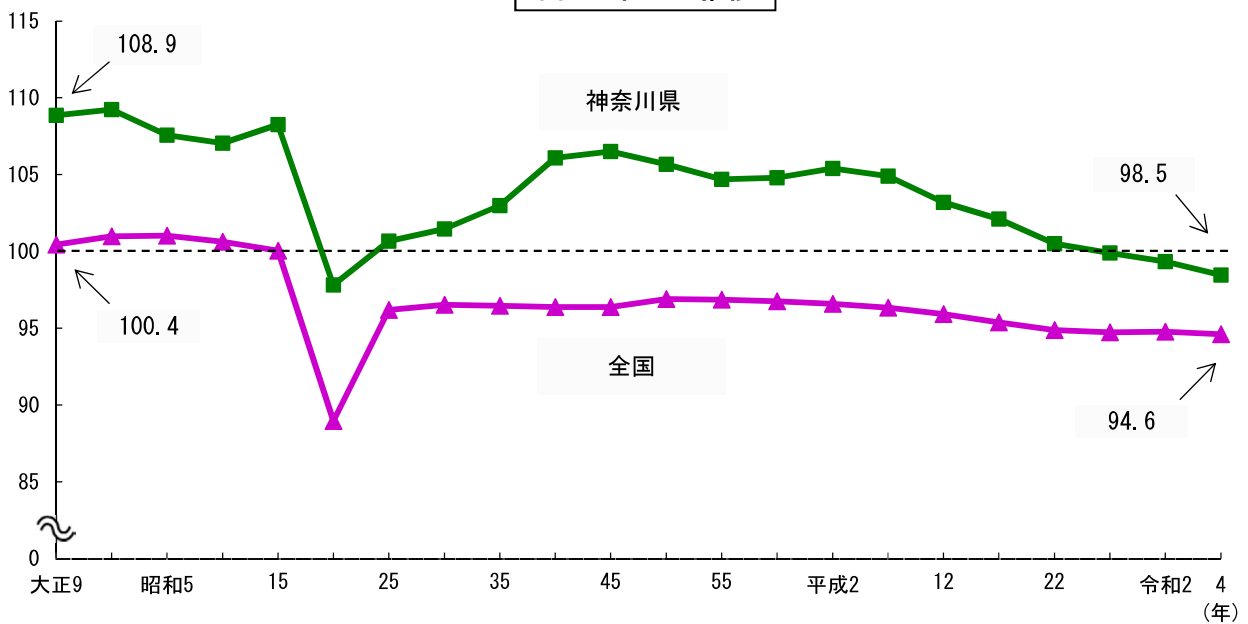
なお、昭和20年を除き、大正9年から平成26年(100.1)までは100以上でしたが、27年(99.9)から100未満となっています。【図6、表4参照】

(2) 年齢(5歳階級)別の性比は、0～4歳から60～64歳までは100以上で、55～59歳が107.4と最も高く、次いで30～34歳(106.5)、25～29歳(106.4)の順です。

65～69歳以上はすべて100未満となっており、55～59歳より上の年齢階級では年齢が高くなるにつれ性比は低くなり、100歳以上の性比は15.3です。

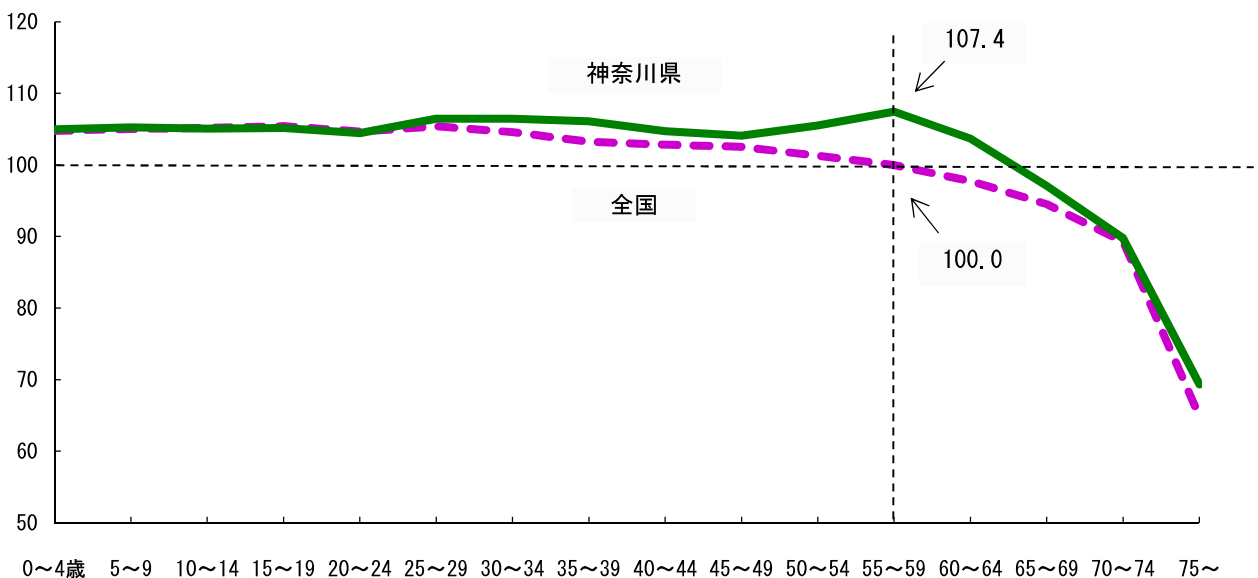
全国と比べると、10～14歳、15～19歳、20～24歳で下回り、その他の年齢階級では上回っています。【図7、表4参照】

図6 性比の推移



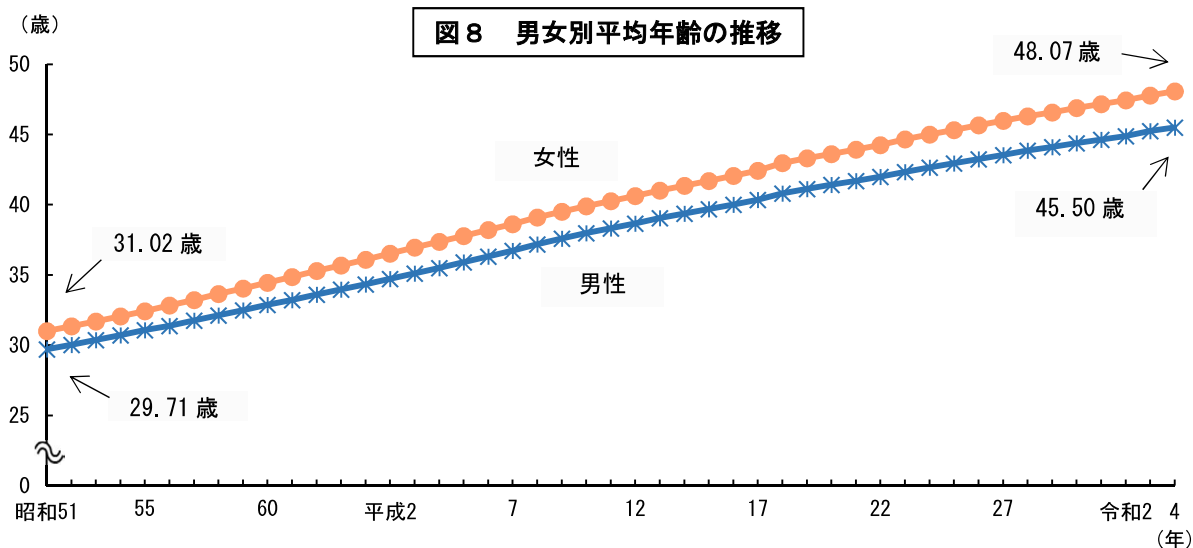
(注) 大正9年から昭和50年までは、国勢調査結果(10月1日現在)による。

図7 年齢(5歳階級)別性比



4 平均年齢

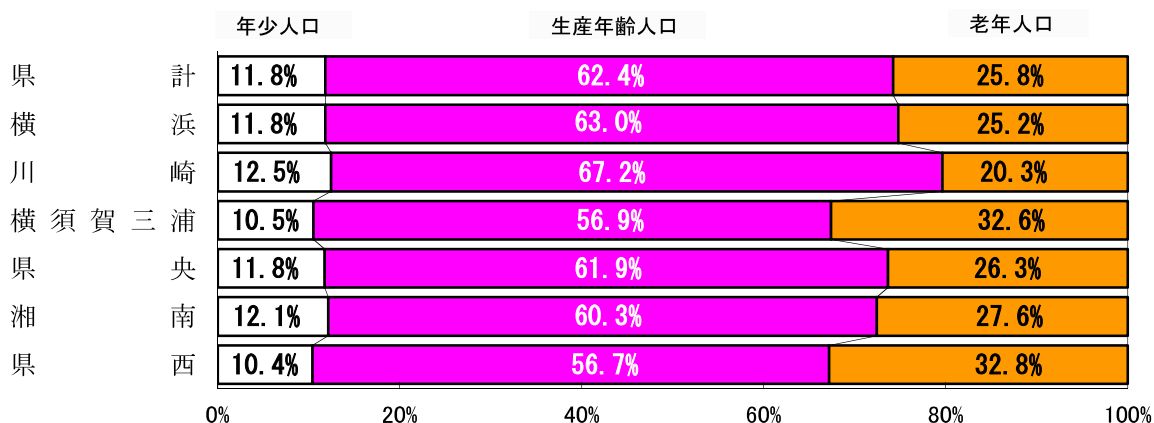
- 平均年齢は46.80歳で、前年調査に比べ0.28歳高くなっています。【表5参照】
- 男女別平均年齢は、男性が45.50歳(前年調査に比べ0.26歳上昇)、女性が48.07歳(同0.29歳上昇)で、男女を比べると女性が2.57歳高くなっています。なお、昭和51年(調査開始年)から男女ともに一貫して上昇しています。【図8、表5参照】
- 県内6地域別の平均年齢が最も高い地域は横須賀三浦地域で50.39歳、次に県西地域で50.36歳、最も低い地域は川崎市で44.00歳、次に横浜市で46.69歳となっています。
また、市区町村別では真鶴町(57.28歳)が最も高く、中原区(41.51歳)が最も低くなっています。【表7、表10参照】



5 地域別、年齢(3区分)別人口の構成比

- 年齢(3区分)別人口構成比を地域別にみると、年少人口の構成比が最も高い地域は川崎市で12.5%、次に湘南地域で12.1%、最も低い地域は県西地域で10.4%、次に横須賀三浦地域で10.5%です。
市区町村別では都筑区(14.8%)が最も高く、箱根町(6.0%)が最も低くなっています。【図9、表6、表10参照】
- 生産年齢人口の構成比が最も高い地域は川崎市で67.2%、次に横浜市で63.0%、最も低い地域は県西地域で56.7%、次に横須賀三浦地域で56.9%です。
市区町村別では中原区(71.4%)が最も高く、真鶴町(49.0%)が最も低くなっています。【図9、表6、表10参照】
- 老年人口の構成比が最も高い地域は県西地域で32.8%、次に横須賀三浦地域で32.6%、最も低い地域は川崎市で20.3%、次に横浜市で25.2%です。
市区町村別では真鶴町(44.4%)が最も高く、中原区(15.5%)が最も低くなっています。【図9、表6、表10参照】

図9 地域別、年齢(3区分)別人口の構成比



6 年齢別異動人口

- (1) 令和3年中の人口増減は5160人の減少で、その内訳は自然増減が2万9983人の減少、社会増減が2万4823人の増加となっています。

自然増減（出生者数から死亡者数を差引いた数）の内訳は、出生者数が6万549人、死亡者数が9万532人で、社会増減（転入者数から転出者数を差引いた数）の内訳は、転入者数が48万8358人、転出者数が46万3535人となっています。【図10、表12参照】

- (2) 年齢（5歳階級）別の社会増減は、20～24歳が1万963人の増加と最も多く、次いで15～19歳（5114人増）、25～29歳（3693人増）の順です。なお、5～9歳、55～59歳、60～64歳、65～69歳、70～74歳で転出超過（社会減）となり、その他の年齢階級では転入超過（社会増）となっています。【表12参照】

- (3) 年齢（10歳階級）別の社会増減は、20歳代が1万4656人の増加と最も多く、次いで10歳代（5448人増）、30歳代（3211人増）の順です。なお、50歳代、60歳代、70歳代で転出超過（社会減）となり、その他の年齢階級では転入超過（社会増）となっています。

また、20歳代が転入者数（18万6634人）転出者数（17万1978人）ともに最も多くなっています。【図11、表13参照】

（注）転入及び転出は、県内市区町村間の移動を含みます。

図10 出生・死亡者数及び自然増減数の推移

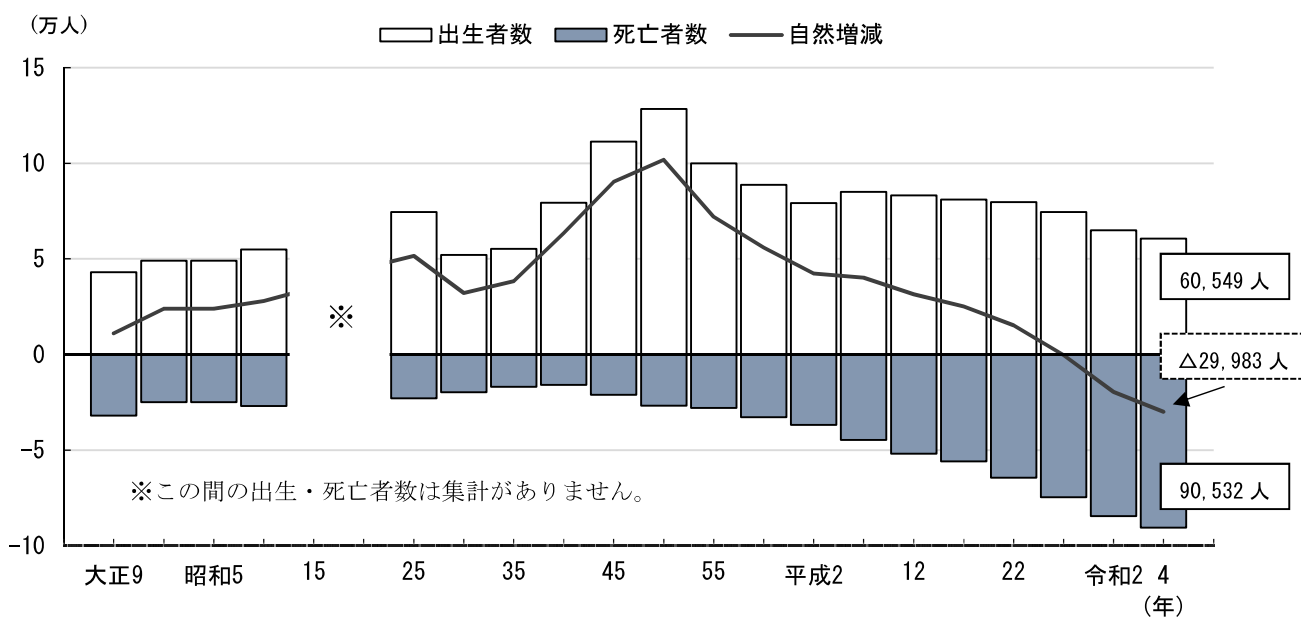


図11 年齢(10歳階級)別転入・転出者数

